保育所・幼稚園・認定こども園における
「こどもの食べる力の育成支援」に関するアンケート調査結果

第１章 調査の概要について

１．調査の目的

市内保育所・幼稚園・認定こども園における離乳食や幼児食の提供状況，こどもの「食べる力（口腔機能）」の育成に関する取り組み，保護者からの相談内容等を把握し，乳幼児期における食育及び口腔機能発達支援の充実に向けた基礎資料を得ることを目的として実施しました。

２．調査時期及び対象，回答状況

実施時期	調査対象	対象者数	回答数（回答率）
令和8年3月	幼稚園の職員	54 人	21 人（38.9%）
	保育所の職員	131 人	53 人（40.4%）
	認定こども園の職員	134 人	68 人（50.7%）
	小規模保育所等の職員	―	2人
	計	319 人	144 人（45.1%）

３．調査方法

LoGo フォームによる Web アンケート調査を実施しました。

４．主な調査項目

（１）回答者及び基本属性に関する項目
１．回答者の職種
２．施設の種別
３．在籍児数
（２）離乳食・幼児食の提供状況
１．自施設調理による離乳食提供の有無
２．自施設調理による幼児食提供の有無
３．施設における離乳食を開始する目安
４．施設における幼児食へ移行する目安
（３）手づかみ食べ・かじり取り体験の実施状況
１．「手づかみ食べ」「かじり取り体験」の実施の有無
２．「手づかみ食べ」「かじり取り体験」開始する目安
３．「手づかみ食べ」「かじり取り体験」を実施していない理由
（４）保護者からの相談状況
１．離乳期のこどもの食に関する相談の有無
２．離乳期のこどもの食に関する１か月の相談件数
３．離乳期のこどもの食に関する相談内容
４．３歳以上の幼児食に関する保護者からの相談の有無
５．３歳以上の幼児食に関する保護者からの１か月の相談件数
６．３歳以上の幼児食に関する保護者からの相談内容
７．保護者からの相談があった場合の対応
８．回答に困った保護者からの食に関する相談内容（自由記載）

（５）こどもの食べ方や口腔機能に関する状況
　１．食事場面で気になる食べ方（離乳食・幼児食）
　２．離乳食や幼児食を提供する際の工夫（自由記載）
　３．こどもの「かみ合わせ」や「お口周りの癖」でよく見られるもの
　４．障害のあるこどもの食べ方に関する相談の有無と対応
　５．こどもの言葉の発達や構音障害に関する相談の有無と対応
（６）こどもの食べる力（口腔機能）の育成支援
　１．こどもの食べる力（口腔機能）の育成に関する取り組み状況
　２．こどもの食べる力（口腔機能）の育成の具体的な取り組み内容
　３．食べる力の育成に必要と考える支援
　４．食べる力の育成への保護者の関心を高めるための効果的な情報発信方法
（７）こどもの食に関する課題や地域連携による取り組み
　１．こどもの食について日頃から感じている課題等（自由記載）
　２．こどもの食について地域住民や保健センター等との協働による取り組みについて（自由記載）
（８）情報媒体に関する認知状況
　１．仙台市のこどもの歯と口の健康づくりに関する情報媒体の認知状況

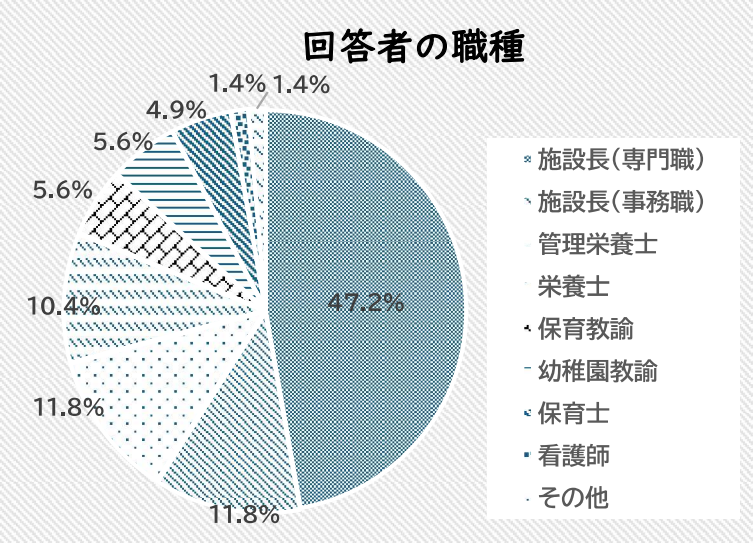
５．調査の設計及び集計分析

本調査は，教育及び保育施設を対象としたアンケート調査として実施しました。集計は各設問の有効回答数を分母として単純集計を行い，回答割合（％）を算出しました。なお，複数回答設問については，回答割合の合計が１００％を超える場合があります。また，自由記載については内容を整理，分類し，現場の課題や支援ニーズの把握に活用しました。分析にあたっては，幼児健康診査受診児の保護者等を対象とした調査，小児の臨床に携わる医師，歯科医師を対象とした調査結果を比較しながら，こどもの食べる力（口腔機能）の現状や課題，支援状況について総合的に考察しました。

第２章　調査結果の概要

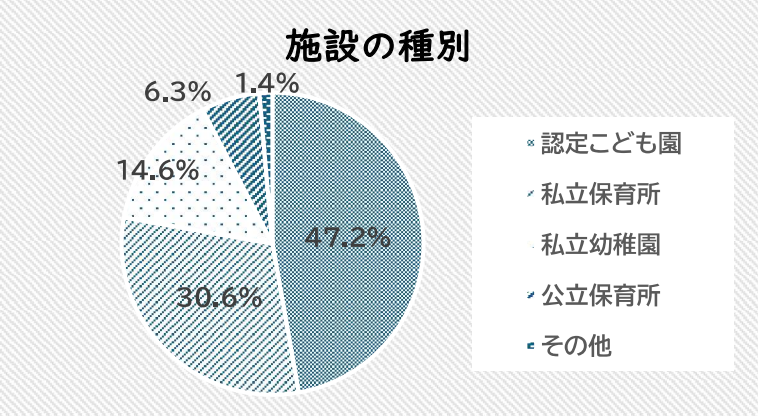
（１）回答者及び基本属性に関する項目
　１．回答者の職種

回答内容	人数	割合
施設長（専門職）	６８名	47.2%
施設長（事務職）	１７名	１１.８%
管理栄養士	１７名	１１.８%
栄養士	１５名	１０.４%
保育教諭	８名	5.6%
幼稚園教諭	８名	5.6%
保育士	７名	4.9%
看護師	２名	１.４%
その他	２名	１.４%
合計	１４４名	１００%



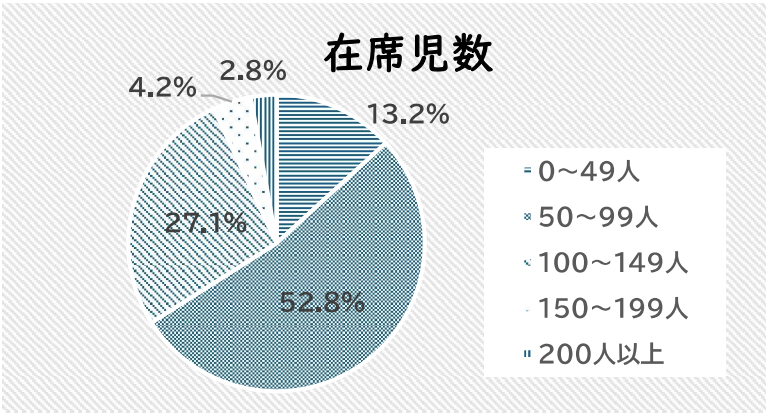
２．施設の種別

回答内容	施設数	割合
認定こども園	68 施設	47.2%
私立保育所	44 施設	30.6%
私立幼稚園	21 施設	14.6%
公立保育所	9施設	6.3%
その他	2施設	1.4%
合計	144 施設	100%



３．在席児数（0～5 歳児合計）

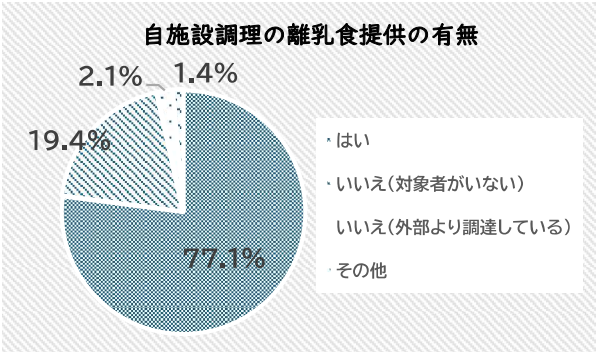
回答内容	施設数	割合
0～49 人	19 施設	13.2%
50～99 人	76 施設	52.8%
100～149 人	39 施設	27.1%
150～199 人	6 施設	4.2%
200 人以上	4 施設	2.8%
合計	144 施設	100%



（２）離乳食・幼児食の提供状況

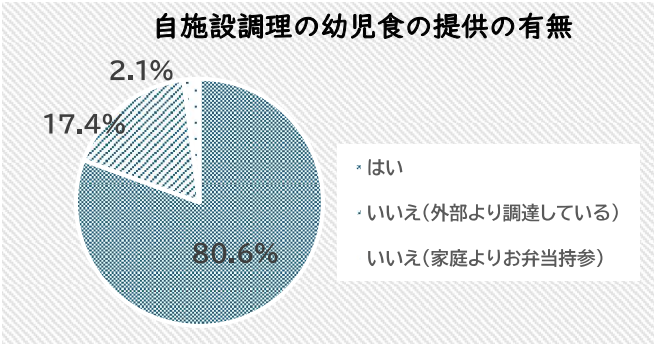
１．自施設調理の離乳食提供の有無

回答内容	施設数	割合
はい	111 施設	77.1%
いいえ（対象者がいない）	28 施設	19.4%
いいえ（外部より調達している）	3 施設	2.1%
その他	2 施設	1.4%
合計	144 施設	100%



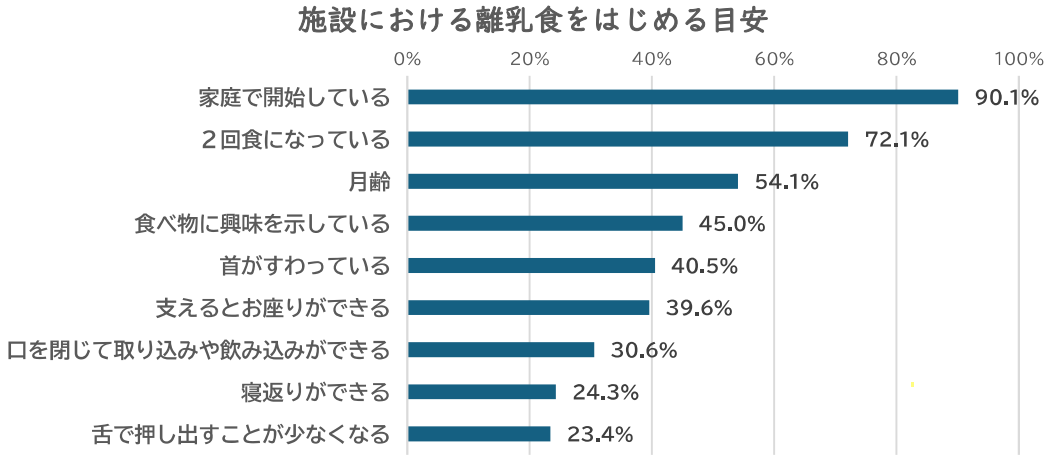
２．自施設調理の幼児食提供の有無

回答内容	施設数	割合
はい	116 施設	80.6%
いいえ（外部より調達している）	25 施設	17.4%
いいえ（家庭よりお弁当持参）	3 施設	2.1%
合計	144 施設	100%



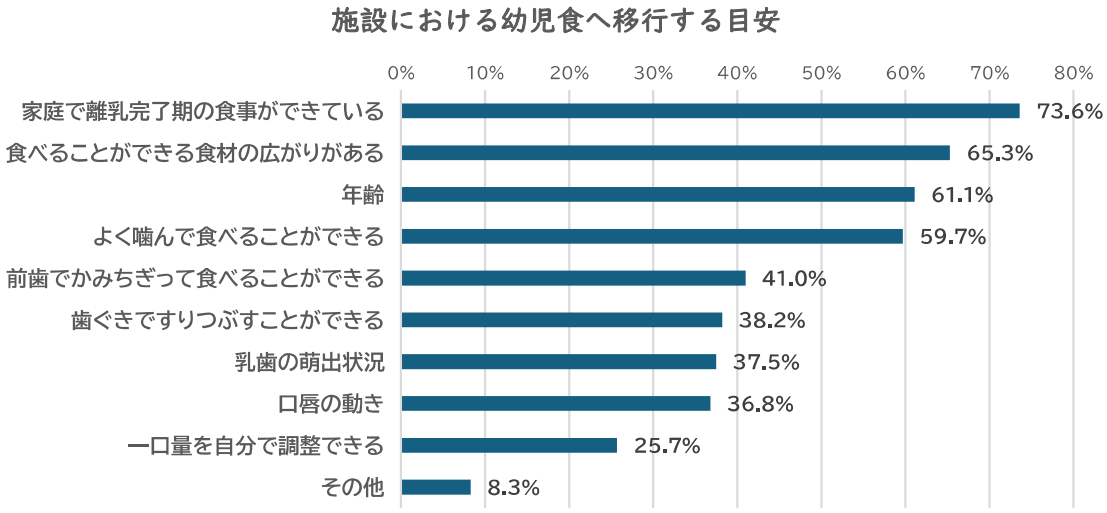
3．施設における離乳食を開始する目安　　n＝111

回答内容（複数回答）	施設数	割合
家庭で開始している	100 施設	90.1%
2回食になっている	80 施設	72.1%
月齢	60 施設	54.1%
食べ物に興味を示している	50 施設	45.0%
首がすわっている	45 施設	40.5%
支えるとお座りができる	44 施設	39.6%
口を閉じて取り込みや飲み込みができる	34 施設	30.6%
寝返りができる	27 施設	24.3%
スプーンなどを口に入れても舌で押し出すことが少なくなる	26 施設	23.4%



4．施設における幼児食へ移行する目安　　n＝144

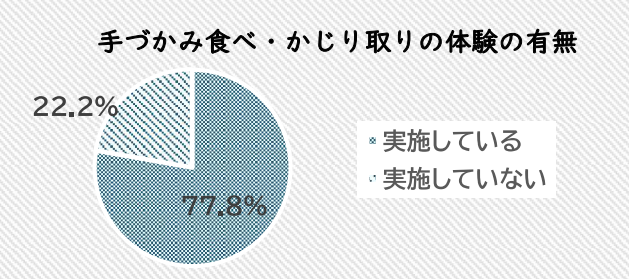
回答内容（複数回答）	施設数	割合
家庭で離乳完了期の食事（歯ぐきでかみつぶせる固さ）の形態で食事ができている	106 施設	73.6%
食べることができる食材の広がりがある	94 施設	65.3%
年齢	88 施設	61.1%
よく噛んで食べることができる	86 施設	59.7%
前歯でかみちぎって食べることができる	59 施設	41.0%
歯ぐきですりつぶすことができる	55 施設	38.2%
乳歯の萌出状況	54 施設	37.5%
口唇の動き	53 施設	36.8%
一口量を自分で調整できる	37 施設	25.7%
その他	12 施設	8.3%



（３）手づかみ食べ・かじり取り体験の実施状況

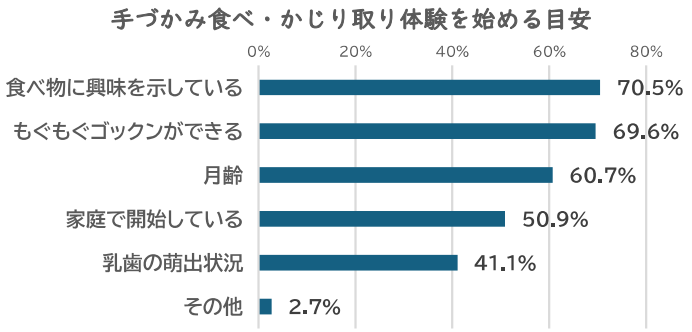
１．「０～１ 歳児」を対象とした「手づかみ食べ・かじり取りの体験」実施の有無

回答内容	施設数	割合
実施している	112 施設	77.8%
実施していない	32 施設	22.2%
合計	144 施設	100%



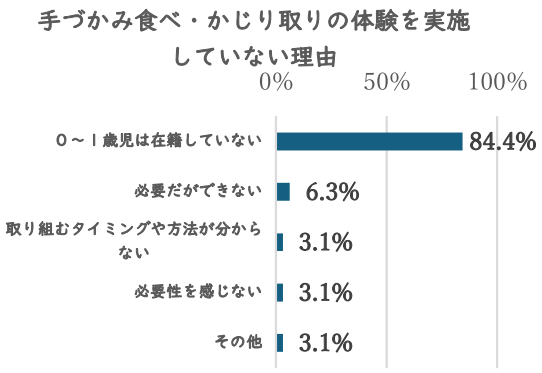
２．「手づかみ食べ」「かじり取りの体験」を開始する目安　ｎ＝112

回答内容（複数回答）	施設数	割合
食べ物に興味を示している	79 施設	70.5%
もぐもぐゴックンができる	78 施設	69.6%
月齢	68 施設	60.7%
家庭で開始している	57 施設	50.9%
乳歯の萌出状況	46 施設	41.1%
その他	3 施設	2.7%



３．「手づかみ食べ」「かじり取りの体験」を実施していない理由　ｎ＝32

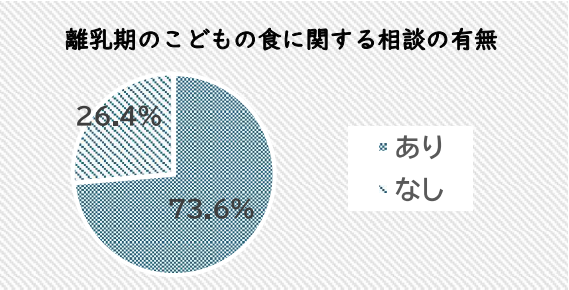
回答内容（複数回答）	施設数	割合
0～1歳児は在籍していない	27 施設	84.4%
必要だができない	2 施設	6.3%
取り組むタイミングや方法が分からない	1 施設	3.1%
必要性を感じない	1 施設	3.1%
その他	1 施設	3.1%



（４）保護者からの相談状況

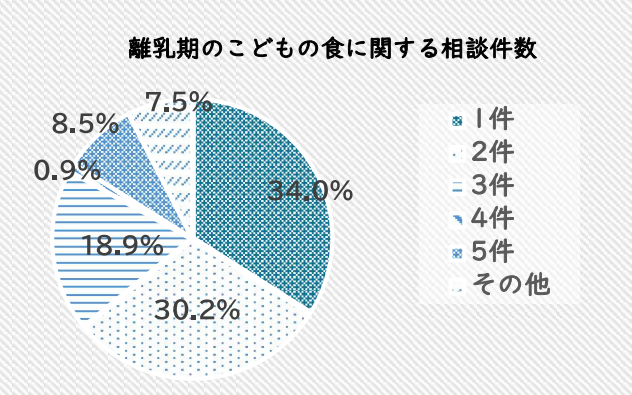
１．離乳期のこどもの食に関する相談の有無

回答内容	施設数	割合
あり	106 施設	73.6%
なし	38 施設	26.4%
合計	144 施設	100%



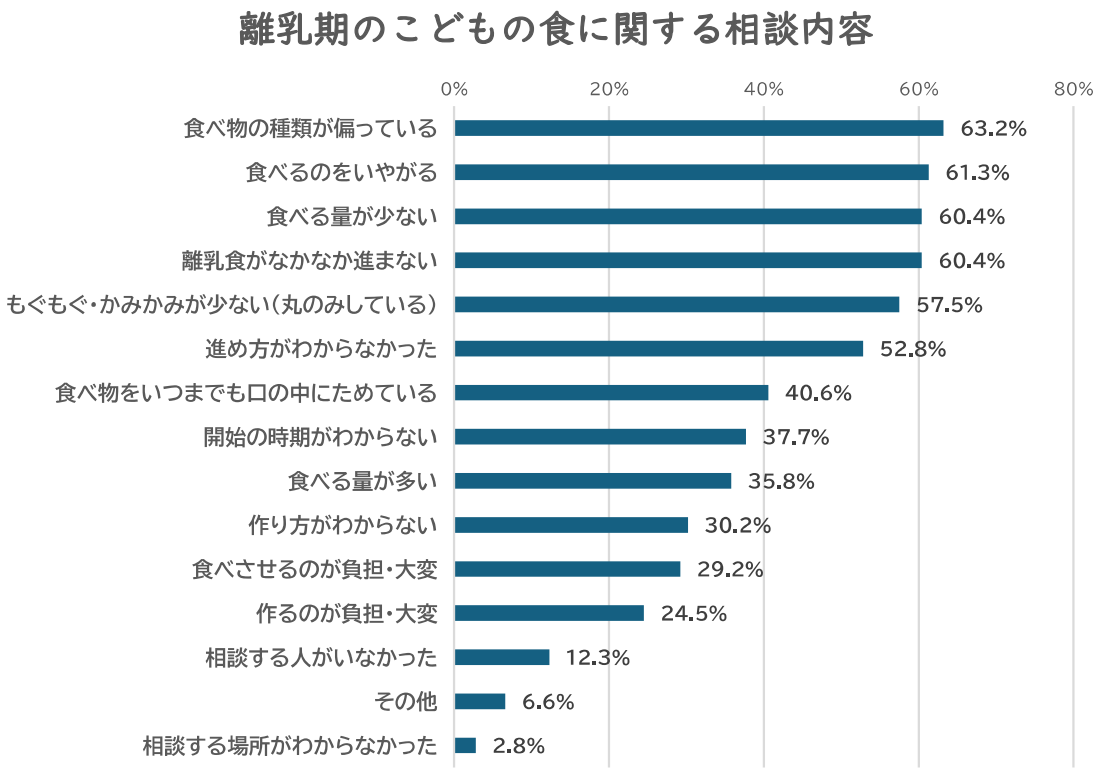
２．離乳期のこどもの食に関する１か月の相談件数

回答内容	施設数	割合
１件	36 施設	34.0%
2件	32 施設	30.2%
3件	20 施設	18.9%
4件	１施設	0.9%
5件	9施設	8.5%
その他	8施設	7.5%
合計	106施設	100%



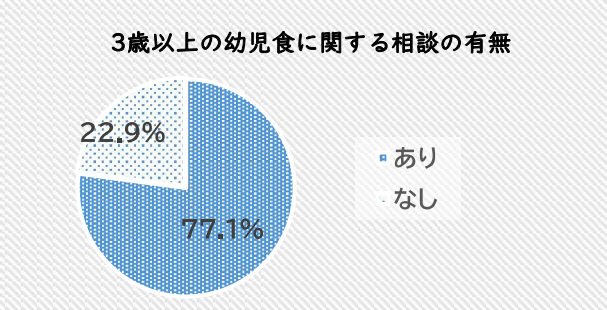
３．離乳期のこどもの食に関する相談内容　　n＝106

回答内容（複数回答）	施設数	割合
食べ物の種類が偏っている	67 施設	63.2%
食べるのをいやがる	65 施設	61.3%
食べる量が少ない	64 施設	60.4%
離乳食がなかなか進まない	64 施設	60.4%
もぐもぐ･かみかみが少ない（丸のみしている）	61 施設	57.5%
進め方がわからなかった	56 施設	52.8%
食べ物をいつまでも口の中にためている	43 施設	40.6%
開始の時期がわからない	40 施設	37.7%
食べる量が多い	38 施設	35.8%
作り方がわからない	32 施設	30.2%
食べさせるのが負担･大変	31 施設	29.2%
作るのが負担･大変	26 施設	24.5%
相談する人がいなかった	13 施設	12.3%
その他	7 施設	6.6%
相談する場所がわからなかった	3 施設	2.8%



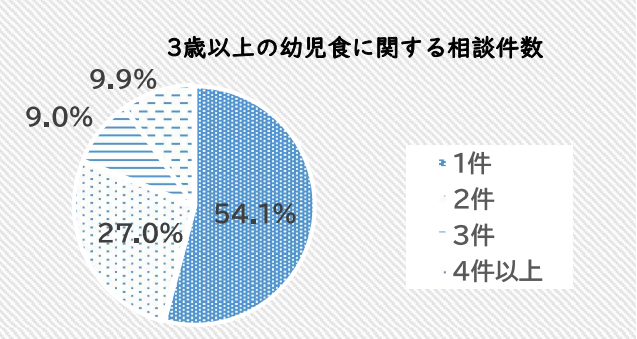
4．3 歳以上の幼児食に関する保護者からの相談の有無

回答内容	施設数	割合
はい	111 施設	77.1%
いいえ	33 施設	22.9%
合計	144 施設	100%



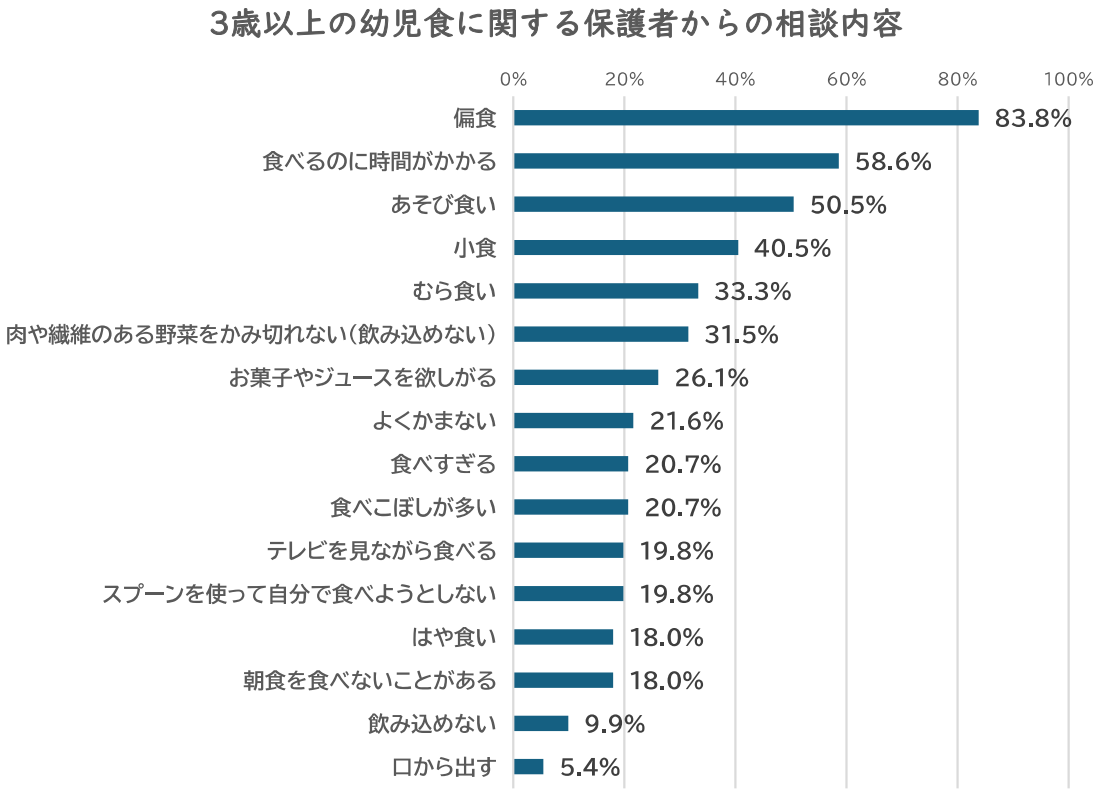
5．3 歳以上の幼児食に関する保護者からの 1 か月の相談件数

回答内容	施設数	割合
1件	60 施設	54.1%
2件	30 施設	27.0%
3件	10 施設	9.0%
4件以上	11 施設	9.9%
合計	111 施設	100%



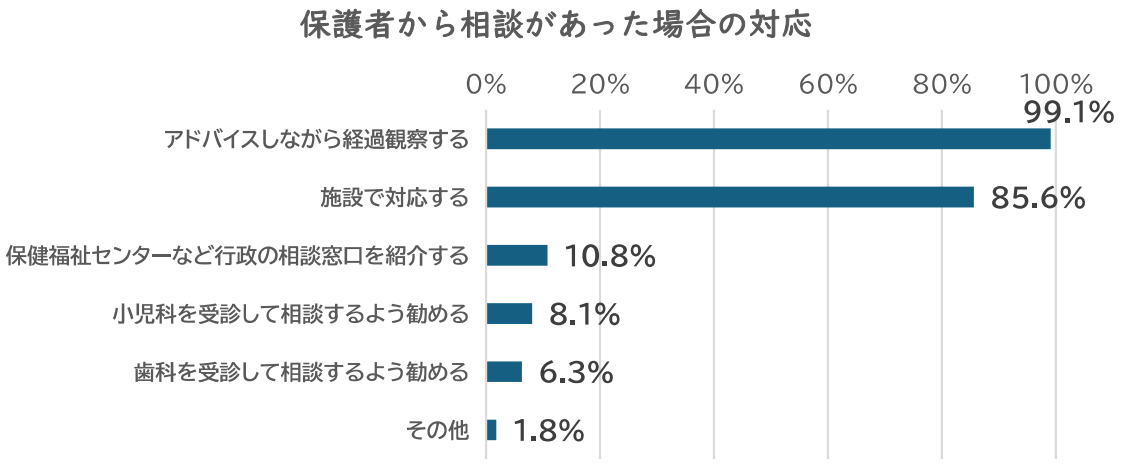
6．3 歳以上の幼児食に関する保護者からの相談内容　　n＝111

回答内容（複数回答）	施設数	割合
偏食	93 施設	83.8%
食べるのに時間がかかる	65 施設	58.6%
あそび食い	56 施設	50.5%
小食	45 施設	40.5%
むら食い	37 施設	33.3%
肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）	35 施設	31.5%
お菓子やジュースを欲しがる	29 施設	26.1%
よくかまない	24 施設	21.6%
食べすぎる	23 施設	20.7%
食べこぼしが多い	23 施設	20.7%
テレビを見ながら食べる	22 施設	19.8%
スプーンを使って自分で食べようとしない	22 施設	19.8%
はや食い	20 施設	18.0%
朝食を食べないことがある	20 施設	18.0%
飲み込めない	11 施設	9.9%
口から出す	6 施設	5.4%



7．保護者からの相談があった場合の対応　n＝111

回答内容（複数回答）	施設数	割合
アドバイスしながら経過観察する	110 施設	99.1%
施設で対応する	95 施設	85.6%
保健福祉センターなど行政の相談窓口を紹介する	12 施設	10.8%
小児科を受診して相談するよう勧める	9 施設	8.1%
歯科を受診して相談するよう勧める	7 施設	6.3%
その他	2 施設	1.8%



8．回答に困った保護者からの食に関する相談内容（自由記載）

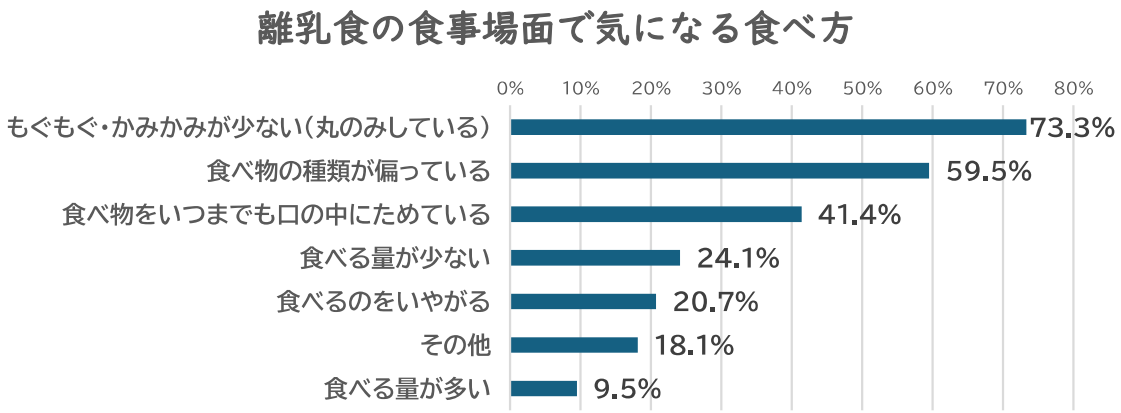
回答内容の分類	主な意見・相談内容
偏食への対応	・偏食について施設としてどこまで対応すべきか悩む ・提供できる食材に限りがある場合の対応に困る
肥満・食事量	・肥満傾向のこどもの食事相談 ・食べすぎる場合の適切な量が分からない
保護者への支援	・何度説明しても保護者の行動変容につながらない ・保護者の考え方やこだわりが強く，助言が受け入れられない
家庭の食習慣	・保護者自身が朝食や夕食を食べる習慣がない ・家庭で食事を作ること自体が難しい
離乳食の進め方	・離乳食をどの程度増やせばよいか分からない ・離乳食の進め方に関する質問への対応に困る
食物アレルギー	・家庭でアレルゲン食材の慣らしが進まず，支援が難しい
保護者の育児負担	・「食事そのものが負担」という相談への対応に困る
その他	・食事中や食後に吐くことが多い ・野菜の代わりに市販のスムージーで良いか等の質問

（５）こどもの食べ方や口腔機能に関する状況

1．食事場面で気になる食べ方

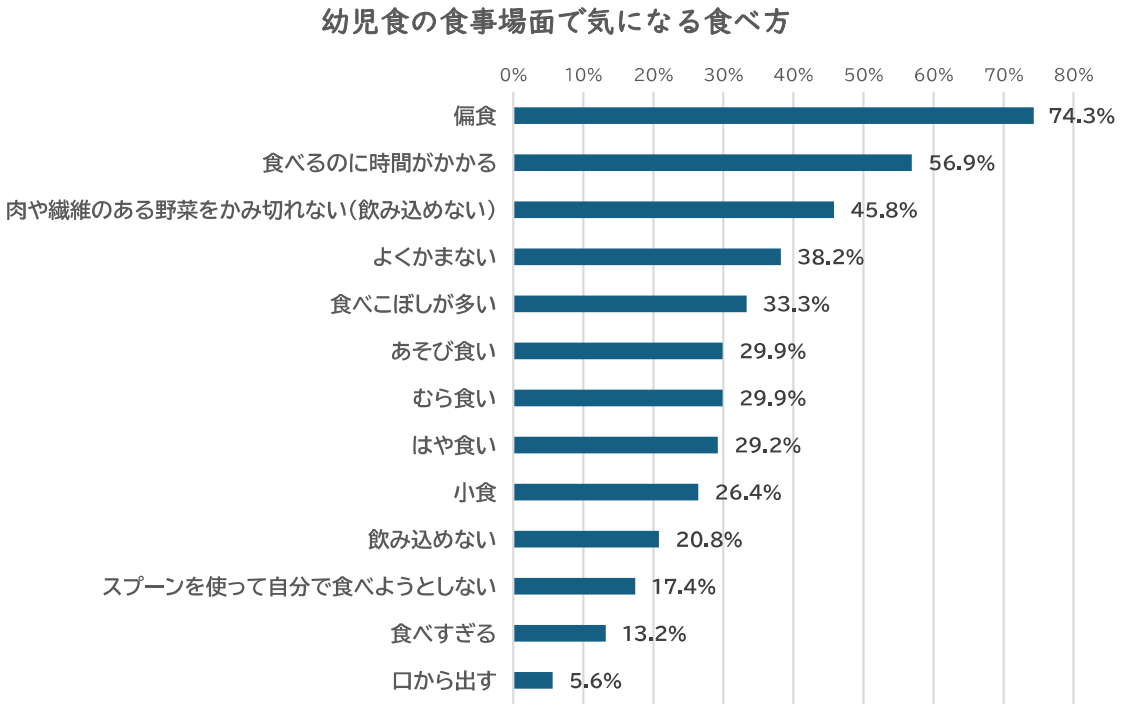
【離乳食】　　n＝116

回答内容(複数回答)	施設数	割合
もぐもぐ･かみかみが少ない（丸のみしている）	85 施設	73.3%
食べ物の種類が偏っている	69 施設	59.5%
食べ物をいつまでも口の中にためている	48 施設	41.4%
食べる量が少ない	28 施設	24.1%
食べるのをいやがる	24 施設	20.7%
その他	21 施設	18.1%
食べる量が多い	11 施設	9.5%



【幼児食】　　n＝144

回答内容（複数回答）	施設数	割合
偏食	107 施設	74.3%
食べるのに時間がかかる	82 施設	56.9%
肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）	66 施設	45.8%
よくかまない	55 施設	38.2%
食べこぼしが多い	48 施設	33.3%
あそび食い	43 施設	29.9%
むら食い	43 施設	29.9%
はや食い	42 施設	29.2%
小食	38 施設	26.4%
飲み込めない	30 施設	20.8%
スプーンを使って自分で食べようとしない	25 施設	17.4%
食べすぎる	19 施設	13.2%
口から出す	8 施設	5.6%



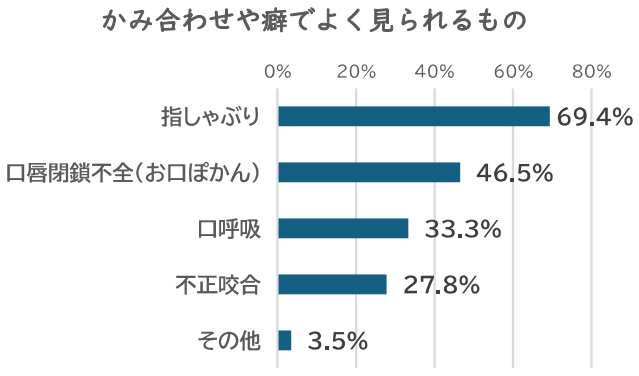
2．離乳食や幼児食を提供する際の工夫（自由記載）

回答内容の分類	主な記載内容
食形態の調整	発達や咀嚼・嚥下機能に応じた硬さ，大きさ，量の調整
個別対応	一人ひとりの食べ方や特性に合わせた対応
家庭との連携	家庭での食事状況を確認しながら提供内容を調整
咀嚼機能への配慮	よく噛める献立，かじり取り体験，一口量の調整
食事姿勢への配慮	椅子や机の高さ調整，足底接地の確保
声掛け・関わり	咀嚼や食具使用についての声掛け，励ましや見守り
食育活動	野菜ちぎり，栽培活動，食材への興味を高める取組
特別な支援が必要な児への対応	食形態の個別変更，専門職との連携

3．こどもの「かみ合わせ」や「お口周りの癖」でよく見られるもの

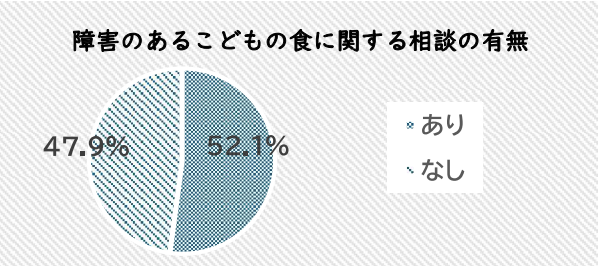
n＝144

回答内容(複数回答)	施設数	割合
指しゃぶり	100 施設	69.4%
口唇閉鎖不全（おくちぽかん）	67 施設	46.5%
口呼吸	48 施設	33.3%
不正咬合	40 施設	27.8%
その他	5 施設	3.5%



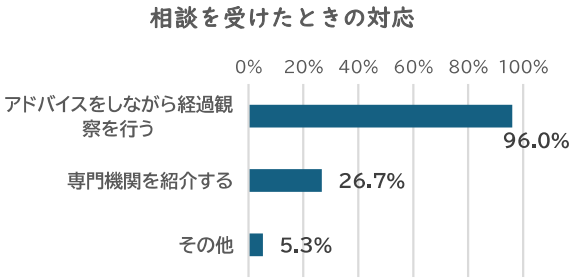
4．障害のあるこどもの食べ方に関する相談の有無と対応

回答内容	施設数	割合
あり	75 施設	52.1%
なし	69 施設	47.9%
合計	144 施設	100%



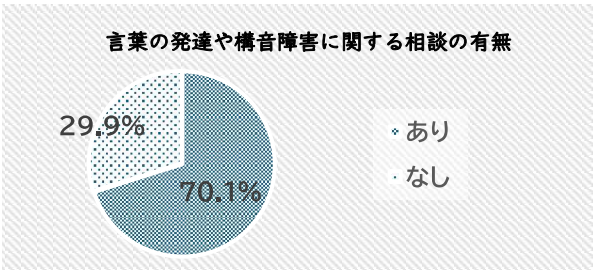
相談を受けた時の対応　　n＝75

回答内容（複数回答）	施設数	割合
アドバイスをしながら経過観察を行う	72 施設	96.0%
専門機関を紹介する	20 施設	26.7%
その他	4 施設	5.3%



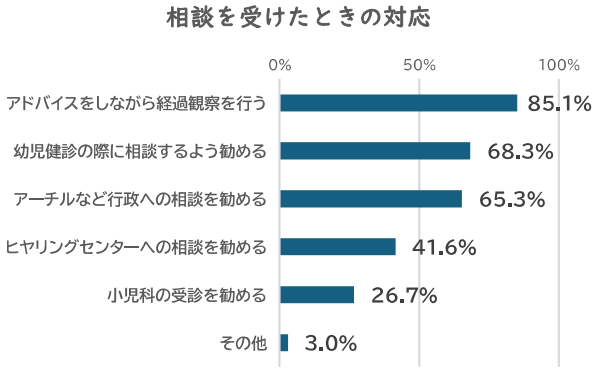
5．こどもの言葉の発達や構音障害に関する相談の有無と対応

回答内容	施設数	割合
はい	101 施設	70.1%
いいえ	43 施設	29.9%
合計	144 施設	100%



相談を受けた時の対応　　n＝101

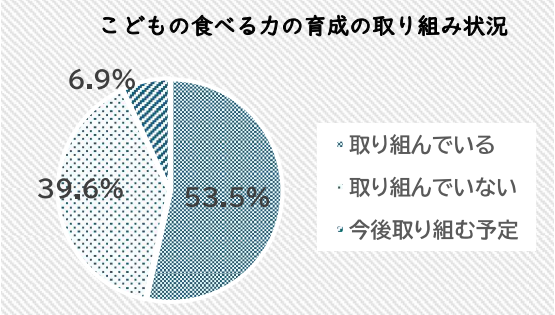
回答内容（複数回答）	施設数	割合
アドバイスをしながら経過観察を行う	86 施設	85.1%
幼児健診の際に相談するよう勧める	69 施設	68.3%
アーチルなど行政への相談を勧める	66 施設	65.3%
ヒヤリングセンターへの相談を勧める	42 施設	41.6%
小児科の受診を勧める	27 施設	26.7%
その他	3 施設	3.0%



（6）こどもの食べる力（口腔機能）の育成支援

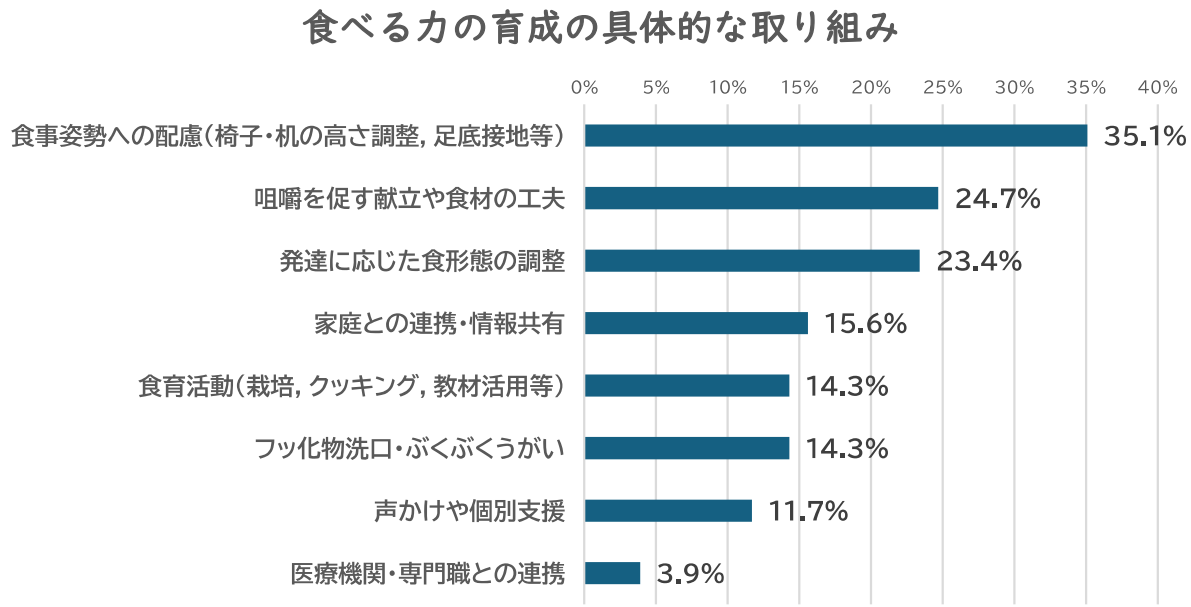
1．こどもの食べる力（口腔機能）の育成の取り組み状況

回答内容	施設数	割合
取り組んでいる	77 施設	53.5%
取り組んでいない	57 施設	39.6%
今後取り組む予定	10 施設	6.9%
合計	144 施設	100%



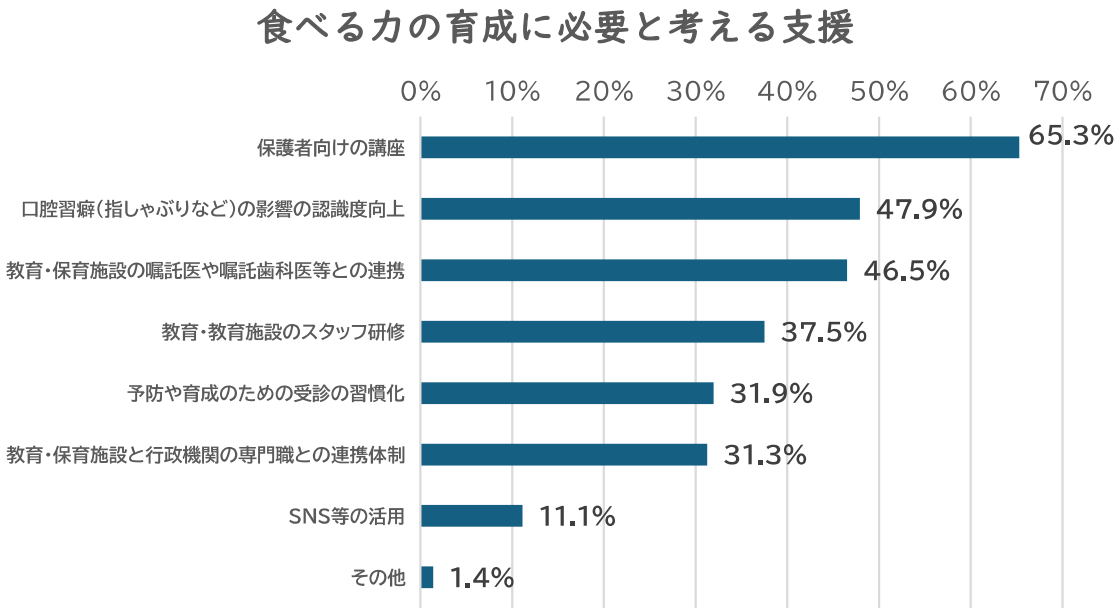
2．こどもの食べる力（口腔機能）の育成の具体的な取り組み内容　n＝77

取組内容（自由回答）	施設数	割合
食事姿勢への配慮（椅子・机の高さ調整，足底接地等）	27 施設	35.1%
咀嚼を促す献立や食材の工夫	19 施設	24.7%
発達に応じた食形態の調整	18 施設	23.4%
家庭との連携・情報共有	12 施設	15.6%
食育活動（栽培，クッキング，教材活用等）	11 施設	14.3%
フッ化物洗口・ぶくぶくうがい	11 施設	14.3%
声かけや個別支援	9 施設	11.7%
医療機関・専門職との連携	3 施設	3.9%



3．食べる力の育成に必要と考える支援　　n＝144

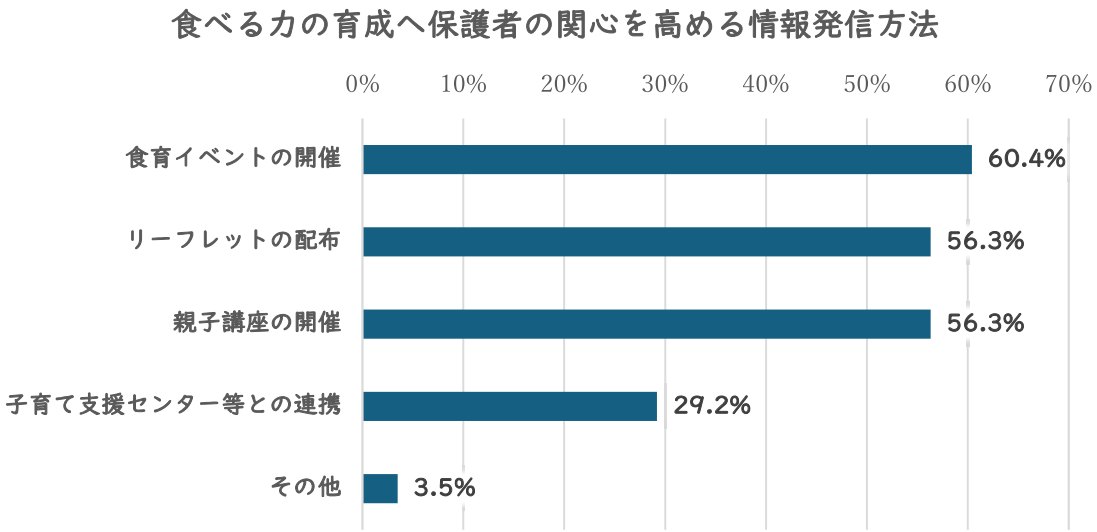
回答内容（複数回答）	施設数	割合
保護者向けの講座	94 施設	65.3%
口腔習癖（指しゃぶりなど）の影響の認識度向上	69 施設	47.9%
教育・保育施設の嘱託医や嘱託歯科医等との連携	67 施設	46.5%
教育・教育施設のスタッフ研修	54 施設	37.5%
予防や育成のための受診の習慣化	46 施設	31.9%
教育・保育施設と行政機関の専門職との連携体制	45 施設	31.3%
SNS 等の活用	16 施設	11.1%
その他	2 施設	1.4%



4．食べる力の育成への保護者の関心を高めるための効果的な情報発信方法

n＝144

回答内容（複数回答）	施設数	割合
食育イベントの開催	87 施設	60.4%
リーフレットの配布	81 施設	56.3%
親子講座の開催	81 施設	56.3%
子育て支援センター等との連携	42 施設	29.2%
その他	5 施設	3.5%



（７）こどもの食に関する課題や地域連携による取り組み

１．こどもの食について日頃から感じている課題等

分類	主な意見(自由記載)
家庭での食習慣の変化	惣菜やインスタント食品の利用が増えている，朝食を食べないこどもが増えている，お菓子の摂取が多いと感じる
偏食・食体験の不足	家庭で好きなものばかり食べる傾向がある，食経験の幅が狭い，伝統的な食文化に触れる機会が減っている
咀嚼に関する課題	かみちぎる力や咀嚼力が弱い，やわらかいものを好む，固いものを食べたがらない
保護者支援の必要性	家庭の食事や食育への関心が低い保護者がみられる，園給食に依存する傾向がある
特別な支援を必要とするこどもへの対応	偏食が強く栄養摂取が難しい，食形態の工夫や専門機関との連携が必要
情報環境の変化	SNS 等の情報に影響を受ける保護者が多い，正確な情報提供が必要

2．こどもの食について地域住民や保健センター等との協働による取り組みについて

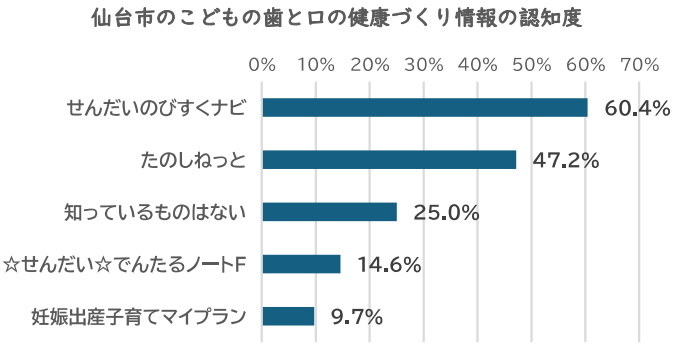
分類	主な内容(自由記載)
農業体験・栽培活動	畑づくり，野菜栽培，さつまいも掘り，玉ねぎ掘り，じゃがいも掘り，田植え・稲刈り等
クッキング・食育活動	収穫した野菜を活用した調理体験，食育活動との連携
地域住民との交流	地域農家との協働，地域住民の協力による農業体験
地域支援活動	こども食堂の開催
保健センター等との連携	保健師や歯科専門職による出前講座，歯と口の健康教育
医療・専門職との連携	区保健福祉センター歯科医師・歯科衛生士との連携や情報共有

（８）情報媒体に関する認知状況

１．仙台市のこどもの歯と口の健康づくり情報の認知度

n ＝144

回答内容（複数回答）	施設数	割合
せんだいのびすくナビ	87 施設	60.4%
たのしねっと	68 施設	47.2%
知っているものはない	36 施設	25.0%
☆せんだい☆でんたるノートＦ	21 施設	14.6%
妊娠出産子育てマイプラン	14 施設	9.7%



１．離乳食や幼児食の提供状況等について

保育施設では，自施設調理による離乳食提供が 77.1％（111 施設），幼児食提供が 80.6％（116 施設）と，多くの施設でこどもの発達段階に応じた食事提供が行われていました。

離乳食開始の目安としては，「家庭で開始している」90.1％（100 施設），「２回食になっている」72.1％（80 施設）が多く，家庭との連携を重視している状況がうかがえました。

また，「食べ物に興味を示している」45.0％（50 施設），「口を閉じて取り込みや飲み込みができる」30.6％（34 施設）など，口腔機能の発達を考慮している施設もみられました。

幼児食への移行については，「家庭で離乳完了期の食事ができている」73.6％（106 施設），「食べることができる食材の広がりがある」65.3％（94 施設），「よく噛んで食べることができる」59.7％（86 施設）が主な目安となっていました。単に年齢や月齢だけで判断するのではなく，咀嚼や口腔機能の発達状況を重視して移行を進めていることが分かりました。

２．「手づかみ食べ」や「かじり取りの体験」の実施状況について

０～１歳児を対象とした「手づかみ食べ」や「かじり取り体験」を実施している施設は 77.8％（112 施設）でした。開始の目安としては，「食べ物に興味を示している」70.5％（79 施設），「もぐもぐゴックンができる」69.6％（78 施設），「月齢」60.7％（68 施設）が多く挙げられました。

手づかみ食べやかじり取り体験は，食べ物への興味や意欲を育てるだけでなく，前歯でかじり取る力，舌や口唇を使う力，咀嚼機能の発達にもつながる重要な経験です。保育施設等では，発達段階を確認しながらこれらの体験を取り入れている状況がうかがえました。

３．こどもの食に関する心配や困りごとに関する保護者からの相談について

離乳期のこどもの食に関する相談を受けている施設は 73.6％（106 施設），３歳以上の相談を受けている施設は 77.1％（111 施設）でした。

離乳期では，「食べ物の種類が偏っている 63.2％（67 施設）」が最も多く，次いで「食べるのをいやがる 61.3％（65 施設）」「食べる量が少ない 60.4％（64 施設）」「離乳食がなかなか進まない 60.4％（64 施設）」「もぐもぐ・かみかみが少ない（丸のみしている）57.5％（61 施設）」といった相談がみられました。

一方，３歳以上では，「偏食 83.8％（93 施設）」が最も多く，次いで「食べるのに時間がかかる 58.6％（65 施設）」「あそび食い 50.5％（56 施設）」「小食 40.5％（45 施設）」「むら食い 33.3％（37 施設）」「肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）31.5％（35 施設）」などと続き，幼児食に移行すると食行動や食習慣に関する課題が目立つようになっていました。

相談への対応は，「アドバイスしながら経過観察する」99.1％（110 施設），「施設で対応する」85.6％（95 施設）が中心でした。

４．こどもの「かみ合わせ」や「習癖」について

保育施設等でよく見られる口腔習癖やかみ合わせについては，「指しゃぶり 69.4％（100 施設）」が最も多く，続いて「口唇閉鎖不全（おくちぽかん）46.5％（67 施設）」「口呼吸 33.3％（48 施設）」「不正咬合 27.8％（40 施設）」が挙げられました。

幼児の保護者対象調査においても，「口を開いていることが多い」「口呼吸」は一定割合で継続して認められており，歯科医師を対象とした調査でも「不正咬合」「口呼吸」「口唇閉鎖不全」が多くみられる症状として認識されていました。

これらの結果から，口腔習癖や口腔周囲機能の課題は乳幼児期全体を通じてみられ，早期の気づきと個々の状況に応じた支援が重要であると考えられます。

５．こどもの食べる力の育成に関する取り組み状況について

こどもの食べる力（口腔機能）の育成に取り組んでいる施設は 53.5%（77 施設）でした。取組内容は，食事姿勢への配慮（椅子・机の高さ調整，足底接地等）が最も多く 35.1%（27 施設）で，次いで，咀嚼を促す献立や食材の工夫 24.7%(19 施設),発達に応じた食形態の調整 23.4%(18 施設)と続きました。

また，施設が必要と考える「こどもの食べる力の育成支援」として，「保護者向け講座 65.3%（94 施設)」「口腔習癖の影響に関する認識度向上 47.9%（69 施設)」「嘱託医・嘱託歯科医との連携 46.5%（67 施設)」「スタッフ研修 37.5%（54 施設)」の順で挙げられていました。

６．その他

障害のあるこどもの食べ方について相談を受けたことがある施設は 52.1%（75 施設）であり，その多くが助言や経過観察を行うとともに，必要に応じて専門機関へつないでいました。

また，言葉の発達や構音障害に関する相談を受けたことがある施設は 70.1%（101 施設）でした。対応として，「幼児健康診査の際，相談するよう勧める」68.3%（69 施設)，「アーチルなど行政への相談を勧める」65.3%（66 施設)，「ヒヤリングセンターへの相談を勧める」41.6%（42 施設）などが挙げられました。

また，こどもの食べる力に関する自由記載では，「家庭での食習慣の変化」「偏食や食経験の不足」「咀嚼力の低下への懸念」「特別な支援を必要とするこどもへの対応」「保護者支援の難しさ」などの課題が挙げられました。さらに，地域住民や保健センターとの協働による取り組みとして，「農業体験」「食育活動」「歯科保健教育」「こども食堂」などが実施されていました。

７．調査結果からみた今後の課題

本調査で明らかになった以下の諸課題の解決にあたっては，行政をはじめ，教育・保育施設，嘱託歯科医(園歯科医)，嘱託医（園歯科医）,栄養士会，大学など，こどもの健康に関するすべての機関や団体が保護者を支援しながら連携を図り，取り組みをすすめていく必要があります。

(1)教育・保育施設においては，こどもの発達段階に応じた食事提供や手づかみ食べ，かじり取り体験，食事姿勢への配慮などを通じて，こどもの「食べる力（口腔機能)」の育成に取り組んでいることが分かりました。一方で，保護者からは離乳食の進め方や偏食，咀嚼に関する相談が多く寄せられており，施設においても家庭での食習慣の変化や食体験の不足，保護者支援の難しさなどが「こどもの食べる力の育成支援の課題」として認識されていることが示唆されました。

(2) 教育・保育施設においては，こどもの口唇閉鎖不全（おロぽかん）や口呼吸などの口腔機能に関する課題，障害のあるこどもの食支援や言葉の発達に関する相談への対応など，食べる力の育成には食育だけでなく，口腔機能や発達の視点を含めた支援が求められている状況がうかがえました。口腔習癖や口腔周囲機能の課題は乳幼児期全体を通じてみられ，早期の気づきと個々の状況に応じた支援に向けた体制づくりが重要であることが示唆されました。

(3)教育・保育施設が必要と考える「こどもの食べる力の育成支援」として，「保護者向け講座」や「口腔習癖の影響に関する認識向上」「嘱託医・嘱託歯科医との連携」「スタッフ研修」が挙げられました。

そのため，教育・保育施設における「こどもの食べる力の育成支援」においては，こどもの栄養や食べる機能への支援のみならず，家庭で実践しやすい情報提供や，保護者の負担軽減を図れる支援を行う必要があります。今後は，教育・保育施設職員への研修機会の確保や，嘱託歯科医や嘱託医をはじめとする医療機関及び行政との連携体制の強化を図りながら，家庭・地域・関係機関の協働により，こどもの健全な食習慣と口腔機能の発達を支える取り組みを推進していくことが重要であると考えられます。

【参考】アンケート調査票

「こどもの食べる力の育成支援」に関するアンケート（保育所・認定こども園・幼稚園）

保育所・認定こども園・幼稚園のみなさまへ

「仙台市・歯とロの健康づくり計画（第３期）」では，「こどもの食べる力や飲み込む力」の育成を支援し，生涯にわたり，楽しく美味しく安全に食事をとることができるよう取り組みを進めております。

本調査は，仙台市内の教育・保育施設における「こどものロ腔機能の育成支援」に関する取り組み状況等を把握し，今後のこどもの健康づくり施策の基礎資料とすることを目的に実施するものです。

ご回答いただいた内容は統計的に処理され，当アンケート以外の目的に使用することはありません。

ご多忙のところ大変恐縮ですが，令和8年3月 31 日（火）までにご回答くださいますようお願いいたします。

仙台市こども若者局 こども家庭保健課 022−214−8606

仙台市健康福祉局　健康政策課 022−214−3894

下記のフォームにご入力をお願いします。

質問は Q1～Q32 です。

回答に際しては，1 施設 1 名の方が代表して，令和7年4月1日現在の状況をお答えください。

私は「保育所・認定こども園・幼稚園における『こどもの食べる力の育成支援』に関するアンケート」に協力することに同意します。

□はい

Q1．調査票へ回答くださる方の職種について，該当するものに1つを選択してください。

□施設長（事務職）　□施設長（専門職）　□保育士　□保育教諭　□管理栄養士　□栄養士

□幼稚園教諭　□看護師　□調理員　□その他（　　）

Q2．貴施設の種別について，該当するものに1つを選択してください。私立保育所

□公立保育所　□認定こども園　□私立幼稚園　□公立幼稚園　□その他（　　）

Q3．貴施設の在籍児数についてお尋ねします（令和７年４月１日現在）

	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児
園児数	＿＿＿	＿＿＿	＿＿＿	＿＿＿	＿＿＿	＿＿＿

合計　＿＿＿人

Q4．貴施設では自施設調理の離乳食の提供をしていますか（回答は一つだけ）

□はい　□いいえ（対象者がいない）　□いいえ（外部より調達している）　□その他（　　）

Q5．貴施設では自施設調理の幼児食の提供をしていますか（回答は一つだけ）

□はい　□いいえ（家庭よりお弁当持参）　□いいえ（外部より調達している）

Q6．Q4で「はい」と答えた方のみ 離乳食を提供している施設に伺います。貴施設において離乳食を始める目安としているものについて，該当するものをお答えください（複数回答可）

□家庭で開始している　□首がすわっている　□支えるとお座りができる　□寝返りができる

□食べ物に興味を示している　□口を閉じて取り込みや飲み込みができる

□スプーンなどを口に入れても舌で押しだすことが少なくなる　□2回食になっている

□月齢　□その他（　　）

Q7．「0～1 歳児についてお伺いします」 貴施設において「手づかみ食べ」や「かじり取りの体験」をさせていますか

□はい→Q8へ　□いいえ→Q9へ

Q8. Q7で「はい」と答えた方のみ 貴施設において「手づかみ食べ」や「かじり取りの体験」を始める目安とするものについて，該当するものをお答えください（複数回答可）

□家庭で開始している □乳歯の萌出状況 □もぐもぐゴックンができる □食べ物に興味を示している
□月齢 □その他（ ）

Q9. Q7で「いいえ」と答えた方のみ Q7で「いいえ」と回答した理由を教えてください（複数回答可）

□必要性を感じない □家庭でするべきこと □取り組むタイミングや方法がわからない
□必要だができない（理由： ） □0～1歳児は在籍していない □その他（ ）

Q10. 貴施設において幼児食への移行の目安とするものについて，該当するものをお答えください（複数回答可）

□家庭で離乳完了期の食事（歯ぐきでかみつぶせる固さ）の形態で食事ができている
□乳歯の萌出状況 □一口量を自分で調整できる □前歯でかみちぎって食べることができる
□歯ぐきですりつぶすことができる □口唇の動き □よく噛んで食べることができる
□食べることができる食材の広がりがある □年齢 □その他（ ）

Q11. 離乳期のこどもの食に関する心配や困りごとについて，保護者から相談されたことはありますか

□はい→Q12へ □いいえ→Q14へ

Q12. Q11で「はい」と答えた方のみ 1か月におおよそ何件の相談がありますか ： 件

Q13. Q11で「はい」と答えた方のみ どのような相談内容かお答えください（複数回答可）

□食べる量が少ない □食べる量が多い □食べるのをいやがる □食べ物の種類が偏っている
□もぐもぐ，かみかみが少ない（丸のみしている） □食べ物をいつまでも口の中にためている
□開始の時期がわからない □作り方がわからない □作るのが負担、大変
□食べさせるのが負担，大変 □離乳食がなかなか進まない □進め方がわからなかった
□相談する人がいなかった □相談する場所がわからなかった □その他（ ）

Q14. 3歳以上のこどもの食に関する心配や困りごとについて保護者から相談されたことはありますか

□はい→Q15へ □いいえ→Q17へ

Q15. Q14で「はい」と答えた方のみ 1か月におおよそ何件の相談がありますか ： 件

Q16. どのような相談内容かお答えください（複数回答可）

【こども側】

□食べるのに時間がかかる □はや食い □小食 □食べすぎる □偏食 □むら食い □あそび食い
□テレビを見ながら食べる □よくかまない □飲み込めない □食べこぼしが多い □口から出す
□音を立てて食べる □水やお茶で流し込む □お菓子やジュースを欲しがる
□肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない） □スプーンを使って自分で食べようとしない
□朝食を食べないことがある □その他（ ）

【保護者側】

□食事を作るのが苦痛・面倒 □食べさせるのが苦痛・面倒 □時間におわれて食事に余裕がない
□こどもが食べやすい食事の作り方がわからない（形・味・温度・固さ） □いろいろな情報に振り回される
□その他（ ）

Q17. Q11やQ14の相談があった場合，どのような対応をしていますか（複数回答可）

□施設で対応する □アドバイスしながら経過観察する □保健福祉センターなど行政の相談窓口を紹介する
□歯科を受診して相談するよう勧める □小児科を受診して相談するよう勧める □その他（ ）

Q18. こどもの食に関して，保護者から質問されてどう答えて良いかわからないなど，困ったことがありましたら具体的に記載してください

_____

Q19. こどもの食事場面で食べ方について、貴施設職員から見て気になることがありますか（複数回答可）

【離乳食の食べ方について】

□食べる量が少ない　□食べる量が多い　□食べるのをいやがる　□食べ物の種類が偏っている

□もぐもぐ，かみかみが少ない（丸のみしている）　□食べ物をいつまでも口の中にためている

□その他（　　）

【幼児食の食べ方について】

□食べるのに時間がかかる　□はや食い　□小食　□食べすぎる　□偏食　□むら食い　□あそび食い

□よくかまない　□飲み込めない　□食べこぼしが多い　□口から出す　□音を立てて食べる

□水やお茶で流し込む　□お菓子やジュースを欲しがる

□肉や繊維のある野菜をかみ切れない（飲み込めない）　□スプーンを使って自分で食べようとしない

□その他（　　）

Q20. Q19 でこどもの食事場面で食べ方が気になることがあると回答した方のみ「離乳食や幼児食を提供する際，工夫している点はありますか（自由記載）

_____

Q21.こどもの「かみ合わせ」や「お口周りの癖」などでよく見られると感じるのはどれですか（複数回答可）

□指しゃぶり　□口唇閉鎖不全（おくちぽかん）　□口呼吸　□不正咬合　□その他（　　）

Q22. 貴施設ではこどもの食べる力（口腔機能）の育成に取り組んでいますか

□はい→Q23へ　□今後取り組む予定→Q23へ　□いいえ→Q24へ

Q23. Q21 で「はい」または「今後取り組む予定」と回答した方へ どのようなことに対してどのような取り組みを（予定）していますか

_____

Q24. こどもの食べる力の育成のためにどのようなことが必要だと思いますか（複数回答可）

□口腔習癖（指しゃぶりなど）の影響の認識度向上　□予防や育成のための受診の習慣化

□教育・保育施設の嘱託医や嘱託歯科医等との医療連携

□教育・保育施設と行政機関の専門職との連携体制　□教育・教育施設のスタッフ研修

□保護者向けの講座　□SNS 等の活用　□その他（　　）

Q25. 保護者のこどもの食べる力の育成への関心を高めるためにどのような情報発信が効果的だと思いますか（複数回答可）

□リーフレットの配布　□親子講座の開催　□子育て支援センター等との連携　□食育イベントの開催

□その他（　　）

Q26. 障害のあるこどもの食べ方について相談されたことはありますか

□はい→Q27へ　□いいえ→Q28へ

Q27. Q26で「はい」と回答した方のみ 相談された場合，どのように対応していますか（複数回答可）

□アドバイスをしながら経過観察を行う　□専門機関を紹介する　□その他（　　）

Q28. こどもの言葉の発達や構音障害に関する相談をされたことはありますか

□はい→Q29へ　□いいえ→Q30へ

Q29. Q28で「はい」相談された場合，どのように対応していますか（複数回答可）

□アドバイスしながら経過観察を行う　□小児科の受診を勧める

□アーチルなど行政への相談を勧める　□ヒヤリングセンターへの相談を勧める

□幼児健診の際相談してもらうよう勧める　□その他（　　）

Q30. その他，こどもの食に関することで日頃から感じられていることがあれば，お聞かせください。

_____

Q31. こどもの食に関し，地域住民や保健センターなどと協働で取り組みを行っていることがあれば内容を記載してください。

_____

Q32. 仙台市ではあらゆるシーンでのこどもの歯と口の健康づくり情報を発信しています。知っているものを教えてください。

□たのしねっと　□妊娠出産子育てマイプラン　□せんだいのびすくナビ　□☆せんだい☆でんたるノートF

□知っているものはない

ご入力ありがとうございました。

保育所・認定こども園・幼稚園における
「こどもの食べる力の育成支援」に関するアンケート調査報告書

令和８年 10 月

仙台市こども若者局子育て支援推進部こども家庭保健課
仙台市健康福祉局保健衛生部健康政策課